



あなたも
チャレンジ

家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

落ち葉堆肥と生ごみ堆肥

【落ち葉堆肥とは】

広葉樹の中でも、ケヤキ、コナラ、クヌギなどが堆肥材料に適しています。落ち葉堆肥とは、落ち葉に米ぬか、油かす、骨粉などの有機質肥料を加えて発酵させた物で、肥料分を含んだ堆肥になります。

【落ち葉堆肥の作り方】

①壁を利用したり、ベニヤ板でコの字形などの囲いで堆積場を作ってもよい。②落ち葉を20cm程度の厚さに積む。米ぬかや油かすなど落ち葉の重さの1〜2%程度をサンドイッチ状に積み重ね、水をたっぷりまいて踏み固める。③これを繰り返して1mくらいに積み上げる。④1カ月に1回程度切り返し、落ち葉が

図1 落ち葉堆肥の作り方

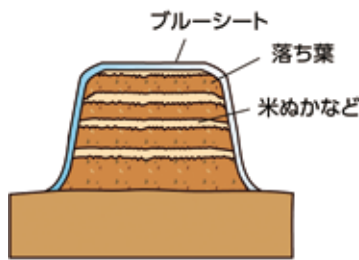
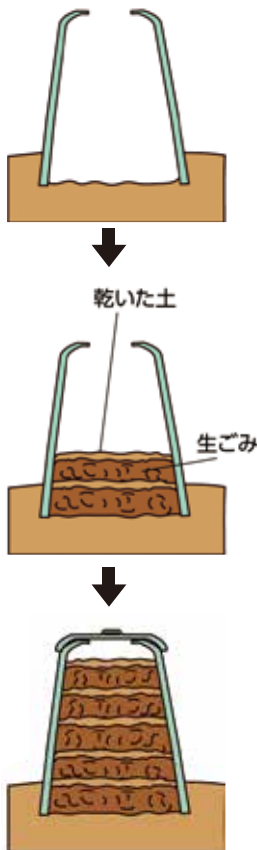


図2 生ごみ堆肥の作り方



ポロポロに崩れてきたら(1年程度完成です(図1))。

【生ごみ堆肥とは】

有機物である生ごみを微生物の働きで堆肥としてリサイクルすることができれば、ごみの減量に役立つだけでなく、地力を高めることもできます。

生ごみの90%以上は水分で、残りの大部分が有機物です。乾燥させて水分を飛ばすだけで減量し、元の重さの5分の1以下になりますが、これは堆肥ではありません。生ごみに米ぬかや油かすなどを加えて発酵させた物が生ごみ堆肥です。

【生ごみ堆肥の作り方】

①釣り鐘形のプラスチック容器

(コンポスターなどの名称で販売やポリバケツ(ふた付き)の底を切り取った容器を、土中20cm程度の深さまで埋める。

②水を切った生ごみを投入し、同量の乾いた土や落ち葉を重ねて入れる。容器が満杯になるまで繰り返す。悪臭や虫の発生を抑え、ごみの分解を早めるために、米ぬかをまぶしておくが良い。

③満杯になった後、1カ月以上放置しておく。一般家庭では、200L程度の容器を2個使い、1個目が満杯になったら2個目にごみの投入を始めれば、ほぼ年間を通して生ごみの処理と堆肥作りができる(図2)。

なお、生ごみ堆肥は窒素を5%程度含み、肥料効果が高いため、生ごみ堆肥だけで栽培するときは、1平方m当たり3〜4kgにします。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



ベランダでできるキッチンガーデン

ミヨウガ

(シヨウガ科シヨウガ属)

土壌医 ● 藤巻久志

ミヨウガは日本特有の香味野菜で、香り成分には食欲増進の効果があります。夏場でも、ミヨウガを薬味にしたそうめんならスルスル食べられます。また、血行促進の効果もあります。ミヨウガは半日陰を好みます。ベランダのプランターでも栽培できます。

ミヨウガには花蕾(からい)を7〜8月に収穫する夏ミヨウガと、9月に収穫する秋ミヨウガがあります。ミヨウガは種茎を植えて育てます。種茎は春先にホームセンターなどに並びますが、通信販売や栽培している知人から分けてもらうのも良いでしょう。

植え付けは種茎の芽が動きだす前の1〜3月が適期です。深さ20cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、深さ5cmほどの溝を作り種茎を横にして20cm間隔に植え付け、軽く覆土します。乾燥を嫌うので敷きわらをし、土の表面が乾かないように十分水やりします。追肥は1週間に1度、10000倍の液肥を施します。

花蕾が地上に半分くらい出てきたところを収穫します。取り遅れると花が咲いて品質が落ちます。

株が充実してくる2年目以降は、春先に芽が出る前に黒ビニールやバケツをかぶせて遮光し、ミヨウガタケを作ることもできます。

毎年収穫できますが、4〜5年たつと根茎が込み合っており、花蕾の出が悪くなります。活力を取り戻すために、6月上旬に15cm間隔に間引きします。思い切って冬の間に植え替えるのも良いです。

